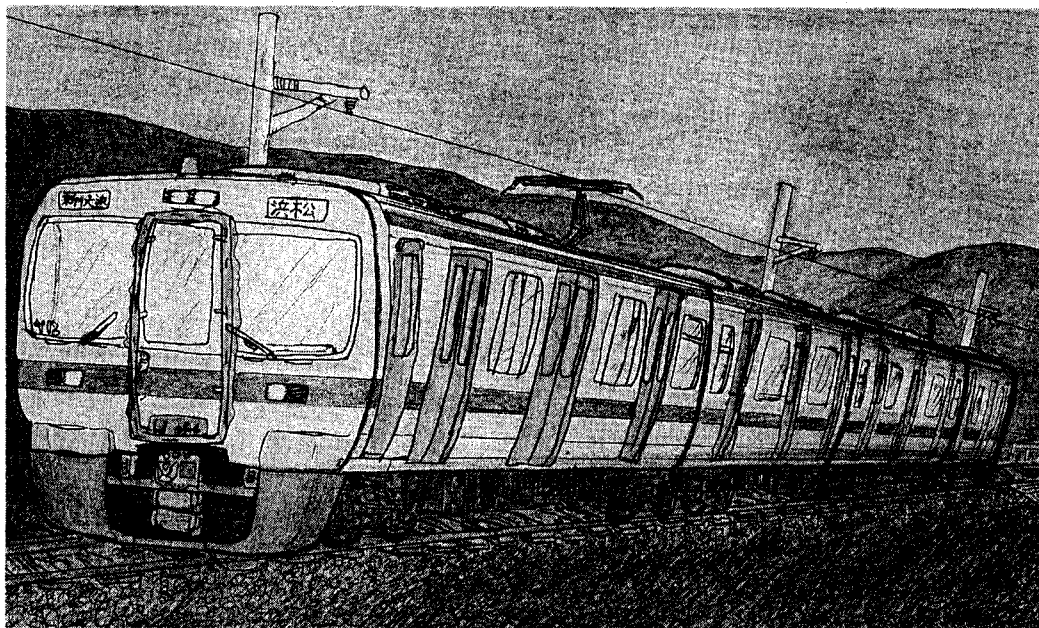


平成14年度 一般研究報告書

自閉性障害のある児童生徒の教育に関する研究 第6巻

平成15年（2003年）2月



独立行政法人 国立特殊教育総合研究所 分室

まえがき

国立特殊教育総合研究所分室は、自閉性を主たる症状とする児童生徒に対する教育の内容及び方法に関する研究を行うとともに、これらの者の教育に関し相談に応じ、必要な指導、助言を行うことを目的としており、研究活動と教育相談事業を行っている。研究活動で得られた成果は、国立特殊教育総合研究所の研究紀要や関係諸学会等にて報告するとともに、平成7年度からは一般研究報告書として毎年刊行し、関係機関等に配布している。

本報告書は、国立特殊教育総合研究所分室の一般研究課題のうち『自閉的傾向のある児童の社会性の発達と教育的支援に関する研究』の平成13年度と14年度の2年間の研究成果を、『自閉性障害のある児童生徒の教育に関する研究 第6巻』としてまとめたものである。

この2年間は、我が国の自閉症関係の施策に大きな進展があった。まず、厚生労働省が「自閉症・発達障害支援センター」を設置し、平成14年の秋から全国12か所でセンターの事業が開始されている。また、文部科学省が平成13年10月に設置した「特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議」では、知的障害のある自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群等の自閉症スペクトラムの児童生徒の教育についての審議が行われている。高機能自閉症、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）等の児童生徒に関する全国的な実態調査も平成14年初頭に実施された。協力者会議では、昨年10月に、「今後の特別支援教育の在り方について（中間まとめ）」を公表し、引き続き、審議が行われており、まもなく最終報告が出されることになっている。さらに、平成14年3月には日本自閉症スペクトラム学会が創設され、平成14年10月にはその第1回研究大会が開催され、平成14年11月には第1回世界自閉症会議も開催されている。このように平成13年度と14年度の2年間は、自閉症スペクトラムの当事者や保護者をはじめ、教育、福祉、医療等の関係者にとっても大きな変革の年であった。

本報告書の刊行にあたっては、研究協力機関、研究協力者をはじめ、関係各位から多大なご協力をいただいた。心より感謝する次第である。今後の自閉症教育の発展に向けて、本報告書を有効に活用していただくとともに、忌憚のないご意見をいただければ幸いである。

平成15年2月

独立行政法人国立特殊教育総合研究所分室長

東 條 吉 邦

『自閉性障害のある児童生徒の教育に関する研究 第6巻』

目 次

まえがき	東條 吉邦	
平成14年度一般研究の趣旨及び経過	東條 吉邦 ... 1 廣瀬由美子	
自閉症の教育・研究・施策に関する最近の状況と課題	東條 吉邦 ... 5	
自閉症児の視線検出機構の検討	千住 淳 ... 19 東條 吉邦 谷口 清 大六 一志 長谷川寿一	
自閉症児の言語音識別と注意	谷口 清 ... 27 千住 淳 東條 吉邦	
高機能自閉症スペクトラム・スクリーニング質問紙(ASSQ)に関する検討・	酒井 彩子 ... 35 是枝喜代治 東條 吉邦	
通常の学級に在籍する高機能自閉症児の集団馴化	落合みどり ... 43	
小学校における自閉症児の運動支援の実際 —— 協応性の向上に視点を当てた事例研究 ——	是枝喜代治 ... 67 東條 吉邦	
表紙の絵 《東海道線の新快速電車》	落合 本順	